

## 第2章

# 気運醸成の取組



2017.8.31 夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会

私たちのまちでオリンピック・パラリンピック競技大会が開催されるという貴重な機会に、大会が多くの市民一人ひとりにとって一生の宝物として心に刻むものになるよう、多摩市では、大会に向けたさまざまな取組を多様な主体と連携・協力して進めました。多様な主体と連携・協力することで、それぞれの取組がより広がりを生み、より多くの方にさまざまな形で大会に関わる機会を創出することを目指しました。

宝野公園で大々的に実施されたラジオ体操・みんなの体操会を皮切りに、スポーツの実践のみならず、健康づくり、トップアスリートの体験談から学ぶ気づき、パラスポーツとの触れ合い、持続可能な社会への啓発など、多岐にわたる分野で大会に向けた気運醸成の取組が進められました。

## 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた気運醸成とレガシーへ繋ぐ取組

年月日	実施状況
2016 10.17	「リオ2016大会 感動をありがとう! イベント in TAMA」開催
11.24	学校法人国士館と「多摩市と国士館大学との東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取組に関する連携協定」締結
12.16	多摩センターパルテノン大通りで「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー」歓迎セレモニー開催
2017 8.31	宝野公園で「夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会」開催
10.28-29	国士館大学連携事業 2017年度スポーツ教室開催
11.23	国士館大学連携事業 トップアスリート講演会「夢をあきらめない」開催
11.28-12.3	「人権のつどいパネル展」でパネル展示
11.29	「新グラフィック」採用の横断幕等を市内各所へ掲出開始
12.1-2	第19回多摩市消費生活フォーラムでみんなのメダルプロジェクトのパネル展示と回収ボックス特設
2018 1.20-21	多摩エコ・フェスタ2018でみんなのメダルプロジェクトのパネル展示と回収ボックス特設
1.27	第9回ボランティアまつりでリオ2016大会のボランティアの様子を写したパネルとポッチャ及びブラインドサッカーの用具の展示
1.28	第13回地域ふれあいフォーラム TAMA でパネル展示と東京五輪音頭2020のお披露目
3.24	2017年度 NO LIMITS CHALLENGE 開催 多摩センター駅前風除板のラッピングお披露目
5.26	楽しく! 美しい! ラジオ体操教室キックオフイベント開催
6.13-翌年2.6	2018年度 楽しく! 美しい! ラジオ体操教室 計14回開催
10.8	2018年度 NO LIMITS CHALLENGE 開催
10.13	2018 CHALLENGE WALKING 開催
11.17-18	国士館大学連携事業 2018年度スポーツ教室開催
12.1	多摩市国際交流センター連携事業「東京2020大会に向けた"おもてなし"講演会&トークショー～伝えたい! 受けた喜びあなたにも～」開催
2019 1.29	市内6大学と「東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取組に関する連携協定」締結 多摩市オリンピック・パラリンピック大学連携協議会設置
3.16	国士館大学連携事業 トップアスリート講演会「東京2020オリンピックに向けた"自転車ロード競技の魅力に迫る"トークイベント in TAMA～世界のONEKANオリンピックへの快走～」開催
4-7月	「たましい込めて盛り上げよう! プロジェクト」実施
4.20-7.15	パルテノン多摩歴史ミュージアム特別展「刀鍛冶と文明開化」開催
5.21-翌年1.21	2019年度 楽しく! 美しい! ラジオ体操教室 計19回開催
5.28	「ポッチャ2020TAMAカップ実行委員会」発足
7.1	庁用車へ自転車競技ロードレースの開催をPRするラッピングを実施
7.5-12、19-26	「多摩市立永山公民館から発信! 東京2020オリンピック・パラリンピック展」開催
7.18	東京2020オリンピックエンブレムうちわの作製
7.21	東京2020テストイベント「READY STEADY TOKYO-自転車競技(ロード)-」開催 多摩大学にて6大学連携事業「自転車競技ロードレース応援イベント～東京2020開催まであと1年!～」開催
9.29	国士館大学連携事業 トップアスリート講演会～東京2020パラリンピック開催まであと1年!～トークイベント in TAMA* 夢への挑戦「パラリンピアンから学ぶ、限界への跳躍」開催
10.3	多摩市オリンピック・パラリンピック連絡会開催
10.14	2019年度 NO LIMITS CHALLENGE 開催
10.19	ポッチャ2020TAMAカップ プレ大会開催
11.23	桜美林大学多摩アカデミーヒルズにて6大学連携事業「東京2020オリンピックに向けた自転車競技ロードレース応援イベント in TAMA」開催
2020 1.20	バッグ型クリアファイルの作製
2.16	第1回東京都市町村ポッチャ大会開催
9.29-11.27	2020年度 楽しく! 美しい! ラジオ体操教室 計7回開催
12.12	第1回多摩市ポッチャフレンドカップ開催
2021 2.20-3.6	国士館大学連携事業 多摩市内巡回セミナー「オリンピック・パラリンピックをもっと知って、みんなで語りませんか?!～オリンピック・パラリンピックが目指していることとその歴史～」計4回開催
3.31-9.10	多摩センター駅周辺にシティドレッシングを実施
5.8	東京2020オリンピック自転車競技ロードレース事前学習プログラム実施
12.12	第2回多摩市ポッチャフレンドカップ開催
2022 1.24-27	2021年度 楽しく! 美しい! ラジオ体操教室 計3回開催



## 2016年リオから2020年東京へ

2016(平成28)年のリオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会では、多摩市在住の土田和歌子選手が車いすマラソンで4位入賞、多摩市出身の畠山愛理選手が新体操女子団体の8位入賞、市内在学の小俣夏乃選手がシンクロナイズドスイミング(チーム)で銅メダル獲得の活躍をされました。

市民に夢と感動を与えてくれた3選手には多摩市栄誉賞を、また、本市のスポーツ振興及び東京2020大会に向けた気運醸成に大いに寄与された国土舘大学に感謝状を贈呈しました。



### ■ リオ2016大会 感動をありがとう! イベント in TAMA <2016.10.17>

パルテノン多摩小ホールに、土田和歌子選手と畠山愛理選手をお招きし、その健闘を讃え、感動を分かち合うイベントを開催しました。小俣夏乃選手は残念ながらアジア大会に向けた代表合宿の日程と重なり、お越しいただきませんが、ビデオメッセージを送っていただきました。

主催:リオ2016大会イベント実行委員会(多摩市、公益財団法人多摩市文化振興財団、多摩商工会議所、一般財団法人多摩市体育協会、多摩センター地区連絡協議会)



貝取保育園の園児たちからの手作り金メダルのプレゼントに喜ぶお二人

### ■ 東京2020オリンピック・パラリンピック フラッグツアー <2016.12.16>

リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会の閉会式で、東京にオリンピック・パラリンピックフラッグが引き継がれ、東京都内62市区町村、並びに福島県、宮城県、岩手県及び熊本県の被災地を巡る「東京2020オリンピック・パラリンピック フラッグツアー」が開催されました。

2016(平成28)年12月16日、フラッグツアーアンバサダーとして、2008年北京、2012年ロンドン、2016年リオデジャネイロオリンピックトライアスロン日本代表の上田藍選手にお越しいただき、多摩センターパルテノン大通りでフラッグの到着を歓迎するセレモニーが行われました。

翌週の12月19日には市役所本庁舎で、20～22日には関戸公民館でフラッグの展示を行いました。



フラッグツアーアンバサダーの上田藍選手から阿部市長へのオリンピックフラッグの受渡し  
右から国土舘大学体育学部川田儀博学部長、阿部市長、上田藍選手、小磯明都議会議員

## 夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会 〈2017.8.31〉



当日は小雨が降る中、早朝暗いうちから多くの市民が集まりました



多摩市内での2020年に向けたさまざまな取組が始まりました。

多摩市としての東京2020大会に向けた取組、東京2020大会をとおして何をレガシーとして残していくのか、模索し検討を重ねていく中で、日常生活の中に運動を取り入れるうへでは、だれもが取り組める身近な運動として、ラジオ体操に着目しました。

全市民を巻き込み、子どもたちも参加できる夏休みのNHK巡回ラジオ体操を招致する案が浮上し、2016年秋に申し込みを行った結果、8月の最終日に開催されることが決定しました。

2017(平成29)年8月31日の午前6時から宝野公園球技場で「夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会」が開催されました。当日はあいにくの空模様で、霧雨が降る中での開催となりましたが、宝野公園には1,000人を超える市民が集まりました。生放送本番はラジオ体操の歌から始まり、体操講師とアシスタントの方をお手本に元気いっぱいラジオ体操を行いました。体操終了後は、宝野公園の芝生にてピラティス&ヨガ体験会も行われました。

東京2020大会に向けた取組の始まりを印象づける全市を挙げてのイベントとして、大成功を収めました。

東京2020大会へ向けたさまざまな取組を実施するにあたり、多摩市は多様な主体と連携・協力し、気運醸成や事前キャンプの誘致・受け入れ、自転車競技ロードレース、聖火リレーの実施に向けた準備等を進めていきました。



## 国士舘大学との連携

### 学校法人国士舘との連携協定締結〈2016.11.24〉

多摩市と国士舘大学は、開かれた地域社会を志し、地域社会への貢献を図るため、2003(平成15)年に基本協定を締結し、互いに連携して事業を進めてきました。

2020年に開催する東京2020オリンピック・パラリンピックの成功に向けて一層の連携強化を図るため、多摩市と学校法人国士舘は、2016(平成28)年11月24日に「多摩市と国士舘大学との東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取組に関する連携協定」を締結しました。

連携協定に基づき、「楽しく! 美しい! ラジオ体操教室」「スポーツ教室」「トップアスリートを招いた講演会」「巡回セミナー」を実施しました。



学校法人国士舘大澤英雄理事長と阿部市長

### 楽しく! 美しい! ラジオ体操教室

2017(平成29)年8月31日に宝野公園で開催された夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会の流れを汲み、東京2020大会への気運醸成と市民の健康づくり活動の推進のため、男子新体操のスペシャリストである国士舘大学男子新体操部監督の山田小太郎氏と同大学ジュニア男子新体操クラブコーチの斉藤剛大氏による専門的な指導のもと、ラジオ体操の一つひとつの運動・動作を正確に、より効果的に実施する方法などを意識しながら、楽しく! 美しい! ラジオ体操を習得する教室を開催しました。

### ▶キックオフイベント〈2018.5.26〉

総合体育館第1スポーツホール 延べ54人参加



### ▶コミュニティセンターなどで教室を開催

その後、総合体育館、市内各コミュニティセンターや小学校などで開催し、2018~2021(平成30~令和3)年度までの4か年間で開催回数は延べ44回、延べ参加者数は1,007人を数え、地域に根差した活動として定着しました。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、2020(令和2)年度の活動は定員の削減、マスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保、場内の換気、検温の実施、また同時に、会場での参加のほかにオンライン(YouTube)でのライブ配信(トムハウスを除く)も行おうなど、感染症対策を講じながらの開催となりました。



総合体育館第1会議室 2018.6.13



乞田・貝取ふれあい広場公園 2019.7.23



大栗川・かるがも館 2019.11.19



からきだ菖蒲館 2020.1.21



ひじり館 2020.9.29



貝取こぶし館 2020.11.2



ゆう桜ヶ丘 2020.11.10



関・一つむぎ館 2020.11.24



トムハウス 2020.11.25



愛宕かえで館 2020.11.27

## ■ スポーツ教室

市内小中学生を対象に、スポーツに親しむ機会を提供し、東京2020大会への興味と関心を持ってもらうきっかけづくりとして「スポーツ教室」を開催しました。

### ▶ 国士舘大学多摩キャンパスで開催〈2017.10.28-29〉

2日間で延べ147名の小・中学生・保護者が参加し、新しい友達や大学生と交流を深めながら、楽しくスポーツをして過ごしました。

レスリング・体操・陸上競技・野球・サッカー・ラグビー・ラクロス・相撲・バレーボール・大人向けヨガの10種目を大学の現役選手と一緒に体験できる場を作り、スポーツの楽しみを体験してもらいました。

### ▶ 国士舘大学多摩キャンパスで開催〈2018.11.17-18〉

2日間で延べ147名の小・中学生・保護者が参加しました。

参加した子どもたちは、陸上競技・レスリング・ソフトボール・ラグビー・柔道・新体操(男子・女子)・サッカー・ラクロス・大人ヨガの10種目の競技を国士舘大学の学生や先生と一緒に楽しんでいました。





## ■ トップアスリートを招いた講演会

### ▶ トップアスリート講演会「夢をあきらめない」を開催〈2017.11.23〉

パルテノン多摩大ホールにおいて2000シドニーパラリンピック競泳男子4×100mメドレーリレー（視覚障害）金メダリストの中條泰治氏と2004アテネオリンピック女子ハンマー投日本代表で陸上競技女子円盤投、ハンマー投の日本記録保持者の室伏由佳氏のお2人をお招きし、トークショーを開催しました。ホワイエには、国土館大学のオリンピック出場選手のパネルやオリンピック・パラリンピックの歴史がわかるパネルを展示しました。

### ▶ 「東京2020オリンピックに向けた“自転車ロード競技の魅力に迫る”トークイベント in TAMA ～世界のONEKAN オリンピックへの快走～」を開催〈2019.3.16〉

パルテノン多摩小ホールにおいて、東京2020オリンピック開幕500日前イベントとして、トークイベントを開催しました。多摩市が東京2020オリンピック自転車競技ロードレースのコースに決定したことから、2000シドニー・2004アテネ・2008北京オリンピック自転車女子個人ロードレース日本代表の沖美穂氏と、2012年全日本自転車競技選手権大会ロードレース優勝の土井雪広氏をお招きし、ご自身の貴重な経験談を交えながら、競技の基礎知識、レースの楽しみ方、市内おすすめ観戦スポットなどを語っていただきました。コーディネーターは国土館大学体育学部体育学科講師の増本達哉氏が務めました。

パルテノン多摩特別展示室において同時開催（トークショー当日及び翌3月17日の2日間開催）した特別展では、自転車競技や、オリンピック・パラリンピックに関連した展示を通じオリンピック・パラリンピックの価値や意義を発信していくための取組を行いました。



### ▶ ～東京2020パラリンピック開催まであと1年！～トークイベント in TAMA “夢への挑戦” 「パラリンピアンから学ぶ、限界への跳躍」を開催〈2019.9.29〉

関戸公民館ヴィータホールにおいて、リオ2016パラリンピック男子走り幅跳びT42銀メダリストの山本篤選手をお招きし、第一部では山本選手の講演を、第二部では山本選手とパラスポーツに取り組んでいる国土館大学大学院修士課程修了の松山和真さんと同大学4年の本間未来さんによる「クロストーク」を行いました。コーディネーターは国土館大学体育学部教授の田口康之氏が務めました。

障害の有無に関わらず、夢をもってあきらめない気持ちや限界へ挑戦することの大切さ、そして、障がいのある人もない人も共に生きやすい社会をつくるために何ができるのかについて考えました。



## ■ 多摩市内巡回セミナー「オリンピック・パラリンピックをもっと知って、みんなで語りませんか?!～オリンピック・パラリンピックが目指していることとその歴史～」を開催〈2021.2.20～3.6〉

東京2020大会を契機とした、多摩市におけるソフト面でのレガシーの創出を目的として、今一度オリンピック・パラリンピックの理念(目指していること)や歴史について学び、情報・意見交換するためのセミナーを市内のコミュニティセンター3館(愛宕かえで館、ひじり館、ゆう桜ヶ丘)と多摩市国際交流センターを巡回して開催しました。講師は、国土舘大学大学院博士課程スポーツ・システム研究科の青柳秀幸氏が務め、延べ62名の方にご参加いただきました。各会場ともコロナ対策に万全を期して実施しました。



愛宕かえで館 2021.2.20



関戸公民館 2021.2.27



ひじり館 2021.2.28

参加者には、それぞれのオリンピックについての思い出を語っていただき、過去のオリンピック・パラリンピックに直接かかわられた方から、貴重なお話を伺うこともできました。



ゆう桜ヶ丘 2021.3.6



会場に展示された、東京1964大会に関する資料や聖火リレートーチ

## ■ 多摩市国際交流センターとの連携事業

### ■ 「東京2020大会に向けた"おもてなし"講演会&トークショー～伝えたい! 受けた喜びあなたにも～」を開催〈2018.12.1〉

関戸公民館グリーナホールにおいて、北京2008オリンピック陸上男子4×100mリレー銀メダリストの朝原宣治氏とアテネ2004パラリンピック車いす陸上競技5000m金メダリストの土田和歌子氏をお招きし、第1部では朝原氏の講演会を、第2部では朝原氏、土田氏お二人によるトークショーを開催しました。

東京2020大会では、世界各国の選手をはじめ、多くの訪日外国人が見込まれていることから、国際交流や多文化共生の視点から、ゲストのお二人が実際に海外で体験された"おもてなし"について、どのようなことが良かったのか、何が足りなかったのかなどをお話しいただき、明るく楽しいトークで盛り上がりました。





## 東京都との連携 NO LIMITS CHALLENGE

東京都は、パラリンピック競技大会及びパラリンピック競技の認知度向上・理解促進を目的として、市区町村等主催の広く都民が集まるイベントに、パラリンピックの魅力を体験できるプログラムを提供する「NO LIMITS CHALLENGE」を都内各地で展開しました。

市内では、2017(平成29)年度は多摩センタースプリングフェスタ、2018・2019(平成30・令和元)年度は快汗(かいかん)スポーツDAY(体育の日に開催しているスポーツ体験型イベント)と同時開催しました。

### 多摩センタースプリングフェスタ(多摩センターしまじろう広場) 射撃・陸上競技用車いす体験会(2018.3.24)

射撃でアテネ2004・北京2008・ロンドン2012パラリンピックに3大会連続出場した田口亜希氏にゲストアスリートとしてご参加いただきました。

田口氏からは、射撃を始めたきっかけや競技の説明などをお話いただき、子どもたちは興味津々に耳を傾けていました。射撃の体験では的の中心に当てるのが結構難しいようでしたが、皆さん集中して競技を楽しんでいました。また、陸上競技用車いす(レーサー)を体験した方々からは、「かなり疲れる」「思ったより疲れる」といった感想が多く聞かれました。



パラリンピアン田口亜希氏



射撃の体験



陸上競技用車いす体験

### 2018快汗スポーツDAY(総合体育館)

#### ウィルチェアーラグビー(車いすラグビー)体験会・アーチェリー簡易体験会(2018.10.8)

この年の8月10日に行われた世界選手権の優勝メンバーでもある、倉橋香衣選手、島川慎一選手のほか、峰島靖選手、宮野竜一選手にゲストアスリートとしてご参加いただきました。間近で見るウィルチェアーラグビー



ウィルチェアーラグビーの体験会



アーチェリーの簡易体験会

のタックルの迫力に、来場された皆さんも圧倒されていました。その後、来場者が実際に競技用車いすに乗り、選手の方々からのタックル体験やボールを使ったミニゲームを体験しました。

### 2019快汗スポーツDAY(温水プール「アクアブルー多摩」)

#### パラ水泳体験会・ボッチャ簡易体験会(2019.10.14)

アテネ2004パラリンピック競泳男子4×100m自由形リレー(視覚障害)銅メダリストの杉内周作氏に加え、サプライズで東京2020パラリンピックへの出場を目指す風間健太郎選手にゲストアスリートとしてご参加いただきました。参加した子どもたちはブラックゴーグルを付けての水泳体験に戸惑いながらも、選手やスタッフの



パラ水泳(視覚障害)の体験会



ボッチャの簡易体験会

の方々に補助していただきながらなんとか25m泳いでいる姿が印象的でした。

ボッチャの簡易体験会では、家族で体験する方が多く、ルールが少し難しかったのですが、スタッフの方に教えていただきながらも楽しそうに体験していました。

## 市内6大学との連携

### 2018 CHALLENGE WALKING (2018.10.13)

東京2020大会の開催にあたり、多摩市と市内の大学が連携して大会への気運を醸成し、地域の応援体制を整えるためのキックオフイベントとして、また大学連携協議会設立のプレイベントとして、学生の企画・運営によるウォーキングイベントを開催しました。(主催:大妻女子大学(幹事校)、恵泉女学園大学、国土館大学、多摩大学、東京医療学院大学、CHALLENGE WALKING 実行委員会)

市内の5大学は、古くは万葉集で詠われた「多摩よこやまの道」と東京2020オリンピック自転車競技ロードレースのコースの一部として決定した「南多摩尾根幹線道路」とを取り囲むように立地しており、これらの道をウォーキングしながら大学の垣根を越えて学生間・教職員間の交流を深めるとともに、大会へ向けた気運醸成と応援体制で地域の活性化を図るものです。多摩大学をスタートし、多摩よこやまの道と南多摩尾根幹線道路を通りながら国土館大学、恵泉女学園大学、東京医療学院大学を通過ポイントとし、大妻女子大学をゴールとする約12kmのコースを完歩しました。

### 市内6大学との連携協定締結 (2019.1.29)

多摩市と市内6大学は、学生をはじめ、多くの市民が東京2020オリンピック・パラリンピックに関わり、楽しみ、心に刻み、将来につながる価値ある「レガシー」を創出できるよう気運を醸成し、地域の応援体制を整えることを目的に、「東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取組に関する連携協定」を締結しました。



(後列) 左から東京医療学院大学学長佐久間康夫氏、桜美林大学学長畑山浩昭氏、恵泉女学園大学副学長岩村太郎氏、大妻女子大学多摩事務部長船戸敬之助氏  
(前列) 左から国土館大学学長佐藤圭一氏、阿部市長、多摩大学副学長久恒啓一氏

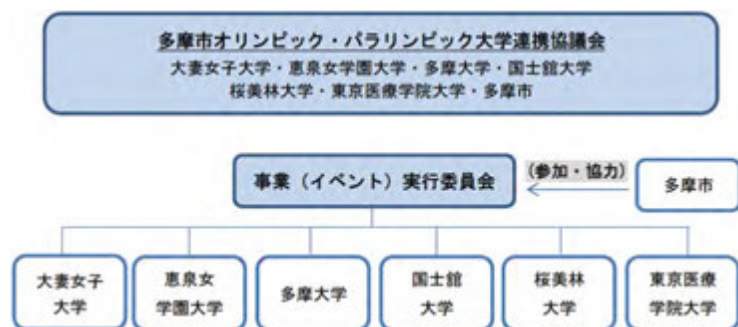
#### 【協定締結大学】

- ・大妻女子大学 ・恵泉女学園大学 ・多摩大学
- ・国土館大学 ・桜美林大学 ・東京医療学院大学

### 大学連携協議会

連携体制として、「多摩市オリンピック・パラリンピック大学連携協議会」を設置し、連携方策、実施内容等について協議するほか、それぞれの取組に関する状況報告及び意見交換を行いました。

この連携協定に基づき、テストイベント及び東京2020大会オリンピック自転車競技ロードレースでは、6大学の多くの学生の皆さんがコース沿道での資機材の設置・撤去等、競技運営のサポートに携わり、大会の盛り上げの一翼を担うボランティア「コースサポーター」として活動しました。また、大会へ向け、自転車競技ロードレースを応援する気運醸成イベントを2回開催していただきました。



オリンピック聖火リレーサポーターについても、コースサポーターと同様に6大学の学生の皆さんにも活動いただく予定でしたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で多摩市内の聖火リレーの公道走行及び出発式が中止となったため、実際の活動はありませんでした。



## ■ 第1回市内6大学連携イベント〈2019.7.21〉

### 自転車競技ロードレース応援イベント～東京2020開催まであと1年!～

東京2020大会開催まであと1年となった2019(令和元)年7月21日、東京2020テストイベント「READY STEADY TOKYO-自転車競技(ロード)」がオリンピック本番と同じコースを使って実施されました。テストイベント当日、コース沿道に立地する多摩大学多摩キャンパスを会場として、市内6大学の学生たちと多摩市が連携して気運醸成イベントを開催しました。

国土舘大学体育学部こどもスポーツ教育学科教授田原淳子氏によるオリンピックの歴史や意義などの理解を深める講演会「オリンピックを通じた国際交流・国際理解」、山中湖や富士スピードウェイなどの実際のコースを走る体験ができるサイクリングVR、子ども向け自転車、競技用自転車でのスピード測定などの体験イベントが行われました。



## ■ 第2回市内6大学連携イベント 〈2019.11.23〉

### 東京2020オリンピックに向けた自転車競技ロードレース応援イベント in TAMA

多摩中央公園に隣接する桜美林大学多摩アカデミーヒルズを会場として、2回目の市内6大学の学生と多摩市の連携イベントを開催しました。

プロ自転車チーム「Team UKYO」所属選手が自転車競技ロードレースの魅力や東京2020大会における市内コースの見どころを紹介するトークショー、チアリーディング、エイサーやバルーンアートなどの学生パフォーマンス、ロードバイクスピード競争などが行われました。



## 他部署との連携

### ■ 都市鉱山からつくる! みんなのメダルプロジェクト

東京2020大会では、「Be better,together / より良い未来へ、ともに進もう。」をコンセプトとして、持続可能な社会の実現に向け、課題解決のモデルを発信しました。

その中のひとつが「都市鉱山からつくる! みんなのメダルプロジェクト」です。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の金・銀・銅あわせて約5,000個のメダルを全国各地から集めたリサイクル金属で作る国民参加型プロジェクトで、環境に配慮し、資源を有効活用する取組です。

多摩市内でも市役所本庁舎やさまざまなイベント会場に回収箱を設置し、使用済みの携帯電話・パソコン・デジタルカメラ等の小型家電の提供を呼びかけた結果、2年間で合計9,641kgもの小型家電が集まりました。東京2020大会のメダル製造に必要な原材料は、このプロジェクトにより全国から集まった小型家電リサイクルで確保できました。



市役所ロビーに回収箱を設置

#### みんなのメダルプロジェクトにおける多摩市の回収実績 (宅配便回収を含む) 2017年4月～2019年3月

	台数	重量
パソコン	1,339台	6,300.9kg
携帯電話	1,441台	166.3kg
その他小型家電	—	3,173.8kg
合計	—	9,641 kg

### ■ さまざまなイベント会場へ出展し、気運醸成を図りました



2017.11.28-12.3 「人権のつどいパネル展」でパネル展示



2017.12.1-2 第19回多摩市消費生活フォーラムでみんなのメダルプロジェクトのパネル展示と回収ボックス特設



2018.1.20-21 多摩エコ・フェスタ2018でみんなのメダルプロジェクトのパネル展示と回収ボックス特設



2018.1.27 第9回ボランティアまつりでリオ2016大会のボランティアの様子を写したパネルとポッチャ及びブラインドサッカーの用具の展示



2018.1.28 第13回地域ふれあいフォーラムTAMAでパネル展示と東京五輪音頭2020のお披露目東京五輪音頭2020のお披露目は多摩市内のダンススクールCLOVERの皆さんにご協力をいただきました





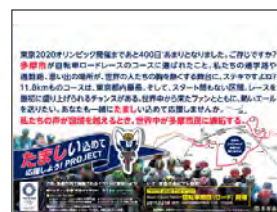
## ■ シティセールス担当「たましい込めて盛り上げよう! プロジェクト」〈2019.4~7月〉

迫力ある自転車競技ロードレースを自分のまちで間近で見られるまととないチャンスに、世界の選手たちを市民全員で応援するため、「たましい込めて盛り上げよう! プロジェクト」を実施しました。

電車の中吊り広告、チラシ、観戦ガイドブックの作成・配布、地域イベントでのPR、コミュニティセンター等での市民参加型イベント実施など、東京2020大会の前年となった2019(令和元)年、テストイベント開催前に自転車競技ロードレースに焦点を当てた大規模な気運醸成事業を展開しました。

5月の多摩センター子どもまつりでは固定自転車による市内コースの走行体験、6月にはコミュニティセンター4館で、また、テストイベント直前の7月13日には、パルテノン多摩市民ギャラリーで、元ロードレーサーの栗村修氏によるトークショー、コースとなる南多摩尾根幹線道路を約1km走行する体験ができる走行体験、競技用自転車やウェアの展示などの自転車ロードレースを楽しく知ってもらうイベントを開催しました。

ガイドブックは市内小中学校、高校・大学等に配布のほか、市内公共施設、東京観光情報センター、近隣大学、市内企業等に配布しました。



## ■ パルテノン多摩歴史ミュージアム特別展「刀鍛冶と文明開化」開催 〈2019.4.20-7.15〉

多摩市出身の刀鍛冶、濱田吉之と正行の兄弟鍛冶の生涯をたどり、彼らが生きた幕末・明治期に人々がどのように海外技術を導入したのかを考える特別展を、公益財団法人多摩市文化振興財団が企画、開催しました。

1897(明治30)年11月3日(明治天皇の誕生日)に、横浜の外国人居留地の外国人による「日本バイシクルクラブ」と、東京の日本人による「大日本双輪倶楽部」の合同自転車遠乗り会(現在のロードレースの前身)が実施されました。この世話人を務めたのが貝取村(現在の多摩市)出身の刀鍛冶の濱田正行と伝えられています。正行は12月には神田に「濱田自転車店」を開き、アメリカ製の自転車を輸入販売するほか、鍛冶の腕を活かして修繕を行いました。濱田自転車店は屋内練習場を備え、5,000人以上の人がここで自転車の乗り方を覚えました。志賀直哉や徳川幕府第15代将軍慶喜の弟、徳川昭武も利用したと見られます。

多摩市が東京2020オリンピック自転車競技ロードレースのコースに決定したこの時期に、日本の自転車の歴史の最初に多摩市出身の人物が深く関わっていたことが明らかになったことに、深い運命的なものを感じました。



## ■ 永山公民館×スポーツ振興課 「多摩市立永山公民館から発信! 東京2020オリンピック・パラリンピック展」〈2019.7.5-12、19-26〉

東京2020大会をより楽しめるように、自転車競技ロードレースのパネル展示やガイドブックの配布などを行いました。1964年東京オリンピックの当時の新聞記事、写真パネル、多摩市の年表などの展示や調布市記録映画「私たちの見たオリンピック」映像を投影し、1964年当時の様子を感じるコーナー、また、19日以降はボッチャの体験コーナーも設置しました。



## 市内企業との連携

### 多摩市オリンピック・パラリンピック連絡会開催〈2019.10.3〉



東京2020大会は、地域の活力向上につなげていく大きなチャンスと捉え、市内の各関係者及び関係機関が自ら主体的に大会に関連した取組を進めることで、市全体での気運醸成を図ることを目的として、市内の官公庁、関係団体、市内企業等をメンバーとする連絡会を設置しました。

取組を行う上での基礎知識となる組織委員会からの情報や本市の取組について共有し、今後関係団体とどのように連携できるのかなどを考えていくきっかけの場として開催しました。連絡会の開催は1回のみとなりましたが、大会やイベント、市の事業の進捗状況などの情報をメールで発信しました。市内企業からは、ボッチャ2020TAMAカップへの参画やアイスランド共和国とのホストタウン交流事業を企画、運営していただくなどの取組がありました。

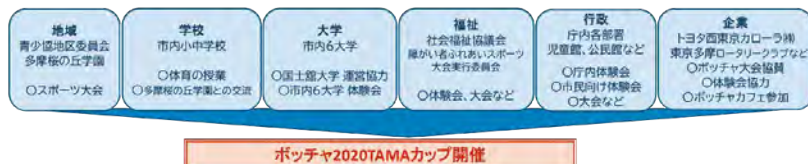
## ボッチャを通じた共生社会の推進

パラリンピック競技のボッチャは、年齢、障害の有無を問わず取り組むことができ、かつ、楽しく奥深いユニバーサルスポーツです。東京2020パラリンピックに向け、ボッチャの普及を通じた共生社会の推進を目指す取組が進められました。

### ボッチャ2020TAMAカップ

市内では地域や学校でボッチャに親しむ取組が行われていました。誰もが取り組めるボッチャを通じて共生社会が推進されることを目的として、地域・学校・大学・福祉・スポーツ・企業・行政で実行委員会を立ち上げ、「ボッチャ2020TAMAカップ」の開催に向け準備を進めました。

#### ▶「ボッチャ2020TAMAカップ実行委員会」を発足〈2019.5.28〉



ボッチャ2020TAMAカッププレ大会の様子

#### ▶ボッチャ2020TAMAカッププレ大会〈2019.10.19〉

東京都立多摩桜の丘学園を会場に、本大会に向けたテスト及び気運醸成を目的として開催しました。市内及び友好都市の長野県富士見町からも29チーム約140人が集まり、白熱した試合に観客も盛り上がりました。

本大会は2020年6月に開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止等のため、延期となりました。

### 多摩市ボッチャフレンドカップ

多摩市スポーツ推進委員協議会は、「多摩市ボッチャフレンドカップ」を開催し、ボッチャの普及と世代や障害の有無の枠を超えた交流の促進に取り組んでいます。

2020.12.12 第1回大会開催    2021.12.12 第2回大会開催



第2回ボッチャフレンドカップの様子

### 東京都市町村ボッチャ大会

市内とは別に、多摩地域での広域的な取組を進める動きもありました。

2020年2月16日、多摩地区29市町の代表57チームが参加し、武蔵野市総合体育館で第1回大会が開催され、多摩市からは2チームが出場しました。

その後2020年度、2021年度と2年度連続で中止を余儀なくされましたが、2022年度以降も継続して実施していく予定です。多摩市も引き続き参加していきます。



## オリンピック・パラリンピック教育

各市立小中学校では、それぞれの学校がオリンピック・パラリンピック教育を通じて育成する資質の重点を設定し、計画的に教科等横断的な学習に取り組みました。例えば、育成する資質として「障がい者理解」に重点を置いた学校では、都立多摩桜の丘学園の児童・生徒とパラリンピック種目のボッチャを通じた交流などを行い、障がい者理解を進め、共生社会の実現に向けて、誰もが心豊かに暮らすことができる地域をつくっていくことへの意識を高めることができました。

教育委員会としても、競技の観戦やボランティア活動など、体験や活動を通じた学びを重視し、大会後も児童・生徒一人ひとりの心と体に残る、かけがえのないレガシーを育んでいくことを目指して事業を進めました。

### 多摩市立学校における東京オリンピック・パラリンピック教育の概要

項目	予定	実施状況
自転車競技ロードレース観戦	沿道での競技観戦	中止
学校連携観戦(都教育委員会から差配される観戦チケット)	申し込みをした学校(小学校9校、中学校9校)	中止
中高生ボランティア	中学生148名が参加予定	中止
聖火リレー	出発式での演奏予定	出発式の中止に伴い、出発式会場での演奏は中止となったが、インターネットライブストリーミング配信に映像で出演
コミュニティライブサイト	小・中学校の合唱・演奏予定	コミュニティライブサイトの中止に伴い出演を中止
アイスランド共和国ホストタウン交流事業	アイスランド共和国関係者や選手団との交流を予定	選手団との交流は中止 駐日アイスランド大使館職員との交流事業
各校のオリンピック・パラリンピック教育	各校で日常の教育活動にオリンピック・パラリンピックを関連付け、年間35時間程度を実施	ゲストティーチャーを招いての競技体験、都立多摩桜の丘学園の児童・生徒との交流、駐日アイスランド大使館との交流など



近隣の特別支援学校の生徒とボッチャやマラソン大会を通して交流している様子

ゲストティーチャーを招いての競技体験 大山加奈氏(アテネオリンピック/女子バレーボール)から実技指導(聖ヶ丘小学校)

### 自転車競技ロードレース事前学習プログラムを実施(2021.5.8)

自転車競技について知ってもらい、自転車競技の楽しさを体感してもらうことで、東京2020大会をより身近に、より楽しんでもらうことを目的として、「自転車競技ロードレース事前学習プログラム」を実施しました。

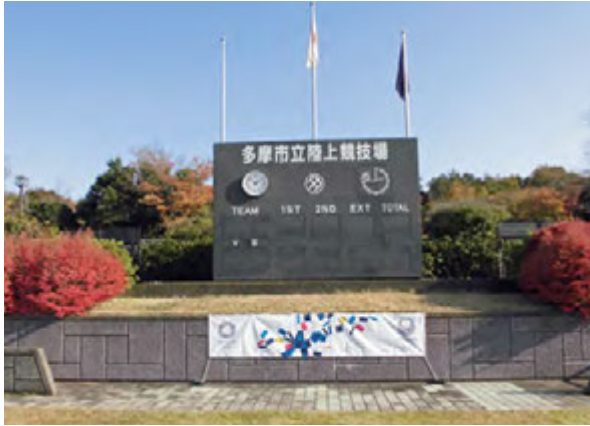
当初は市内の全小中学校の代表児童・生徒の参加による有観客での開催を予定していましたが、当日は緊急事態宣言が発令されていたため、無観客に変更して開催しました。イベントの様子の録画映像はYouTubeで配信するとともに小中学生向けに編集し、各校のオリンピック・パラリンピック教育の中で学習教材として活用できるようにしました。

当日はアテネ2004オリンピック出場の田代恭崇氏と、自転車の解説でおなじみの栗村修氏によるトークイベントが行われ、クイズを交えながら自転車競技について楽しく説明していただくとともに、南多摩尾根幹線道路をコースとして制作した自転車シミュレーション機材を用いた自転車競技体験をしていただきました。



## 装飾・PRグッズ等による気運醸成

### 「新グラフィック」採用の横断幕等を市内各所へ掲出〈2017.11.29〜〉



東京2020大会開幕まで1,000日前を迎えることを契機に、新グラフィック（「Go For 2020! Graphics～Hanabi～」）が発表され、市内体育施設（総合体育館・武道館・陸上競技場・温水プール「アクアブルー多摩」）や市役所本庁舎に、新グラフィックの横断幕・懸垂幕・のぼり旗を掲出しました。

さらに2018（平成30）年度は大会2年前を迎えるにあたり、大会開催が待ち遠しくなるような雰囲気をつくることで市民の大会への関わりやおもてなし、思いやりの意識を高めるため、新たにコミュニティセンターや福祉館、市内小中学校や図書館54施設に設置しました。

#### ▶ 「Go For 2020! Graphics～Hanabi～」のコンセプト

東京2020大会まであと1000日。

大会エンブレムを構成する45個の四角形が花火に変身し、色とりどりに花開き、エキサイティングに光を放つ。年齢の幅を超えて愛される花火をモチーフにして、エンブレムがダイナミックなビジュアルに変化することで、2020年の本大会までの期待感が加速します。

### 多摩センター駅前風除板のラッピングお披露目〈2018.3.24〉



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた気運の醸成を目的に、多摩センター駅南側通路壁面を多摩センター親善大使であるハローキティと仲間たちがスポーツを楽しんでいるデザインで装飾しました。約20メートルに渡りサンリオキャラクターや市の公共施設が描かれた壁面は、全国でも他に例がないものです。



## ■ 庁用車のラッピング〈2019.7.1〉

オリンピック・パラリンピック推進室がヴィータ・コミュニケーター7階に移転したことに伴い、日々の本庁舎との行き来のほか、東京2020大会へ向け、事前キャンプや自転車競技ロードレース、聖火リレーなどの関係者の視察対応やイベント・大会当日等での資機材の運搬等に必要のため、室専用の庁用車を配備することとなりました。そこで市内を走る際に同時に自転車競技ロードレースが市内で開催されることをPRできるよう、庁用車にラッピングを施しました。



オリンピック・パラリンピックのPR活動にあたっては、アンブッシュマーケティングに抵触しないよう注意が必要であり、グッズの作製においてもさまざまな制約がありました。できることを模索し、周知・気運醸成の取組を行いました。

アンブッシュ・マーケティングとは、故意であるか否かを問わず、団体や個人が、権利者である国際オリンピック委員会や国際パラリンピック委員会、組織委員会の許諾なしにオリンピック・パラリンピックに関する知的財産を使用したり、オリンピック・パラリンピックのイメージを流用したりすることを指します。オリンピック・パラリンピックに関する知的財産は、オリンピックシンボル、パラリンピックシンボル、大会エンブレム、大会名称、大会マスコット、ピクトグラム、大会モットー、オリンピックに関する用語、画像及び音声等広範囲に及びます。

## ■ 東京2020オリンピックエンブレム うちの作製〈2019.7.18〉



## ■ バッグ型クリアファイルの作製 〈2020.1.20〉



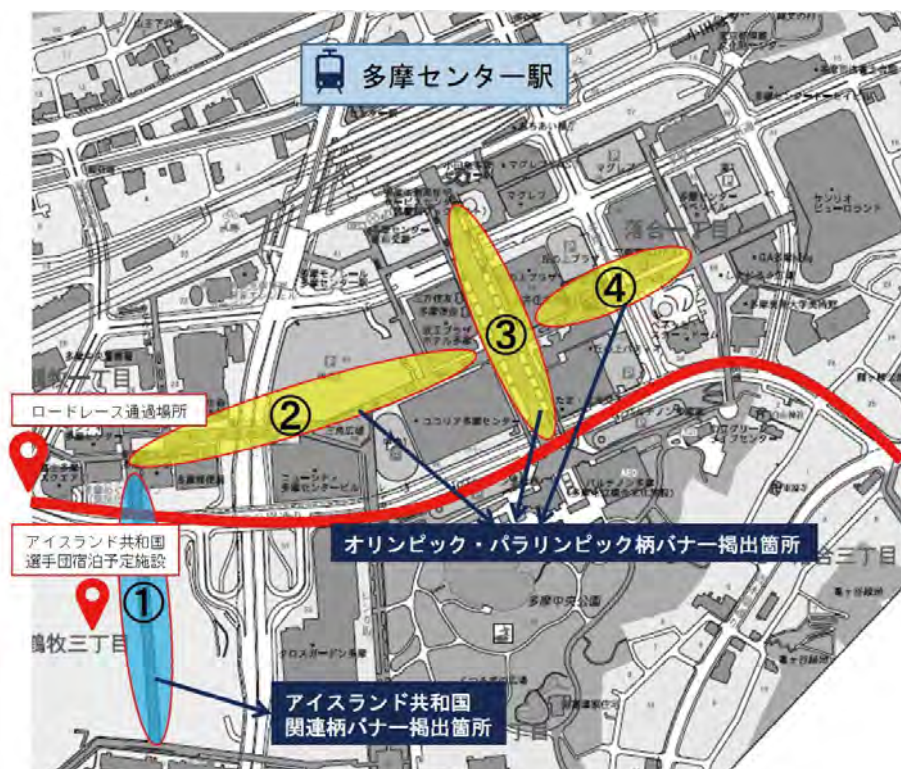
このほか、デュアルエンブレム入りの封筒(長3・角2)と名刺を作製しました。

## シティドレッシング 〈2021.3.31~2021.9.10〉

東京2020大会に際し、オリンピック自転車競技ロードレースが通過する多摩センター駅周辺を世界に対して広く発信するとともに、大会へ向けた市民の気運醸成、地元の活性化のために、印象に残る魅力的な都市装飾を行い、大会の祝祭感を創出して多摩センター駅周辺を盛り上げました。

また、市内で事前キャンプを実施するアイスランド共和国のオリンピック並びにパラリンピック選手団が宿泊する施設周辺についても「おもてなし」の意を含め、街路灯にアイスランド共和国の国旗と多摩市の市旗をモチーフとしたデザインのバナーフラッグを掲出しました。

### 掲出場所



#### ①アイスランド共和国関連柄

1本の街路灯に2枚ずつ、アイスランド共和国を歓迎するデザイン 左右で別絵柄のバナーを掲出



※ VelkomintilTama Borgar  
…意味:ようこそ多摩市へ



#### ②~④オリンピック・パラリンピック柄

1本の街路灯に2枚ずつ、A~Eの5種類のデザインを「A→E」の順に繰り返して掲出 左右で同絵柄のバナーを掲出



A. ゲームズシグネチャー (紅) B. オリンピックシンボル&ゲームズシグネチャー (藍) C. パラリンピックシンボル&ゲームズシグネチャー (緑) D. デュアルエンブレム&大会モットー (松葉) E. ロードレース (桜)

